

みなと 今・むかし新聞

第3号

平成17年 9月

町の様子を振り返る

イベントを実施しました

「私の町と乗り物の思い出」

「路面電車を中心に」

三月十八日、港区立生涯学習センターで開催された、第四回フェスティバルで、懐かしい町を走り抜けていった乗り物を思い出しながら、昔の町の様子、生活の様子など、都電を語り合いの中心にして、という会が開かれました。

会場には、都電に関係のある昔と今を比較した写真、郷土資料館より提供された乗務員が実際に使っていた帽子、かばん、行き先の書かれた巻き取り布、路面電車の線路図等掲示しました。午前中より、多くの方が立ち寄り、展示物の説明を、語り部の人達と語り合い、関心の深さを感じました。

明治三十六年八月二十二日開通、昭和四十二年十二月十日に廃止された1番系統・品川より上野までのうち、銀座線の最後の映像を大画面に写し出したのを始めとして、港区内の都電は出発点・終点が多く、地に残っていました。新橋・品川間の当時の体験をもとにして町の様子や乗り降りした様子、5番系統田村町一丁目から赤羽橋までの昔と今のうつり変わりの思い出、中学から高校までの六年間の定期券をしっかりと保存されていたものの実物を見せて、その中で感じとられる貴重な思い出の数々、都電の車庫に入っていく様子などむかし体験



撮影：中嶋 弘

といくつか語られ、大変有意義な会となりました。都電路線図（百枚）には、「一」、「五」、「七」、「二八」系統を色別によく分かるようにしてあり好評で、残りがほとんどない状況です。

でした。都電が開通して廃止、それから三十八年もの月日が重ねられ、町の様子も、車、地下鉄と乗り物の変遷にともない町並みも一段と整備されました。

閉会後も再度ビデオを観たり、会場の方々と語り合う姿をみることができました。

（廣畑 美恵・ひろはた みえ 83歳）



昭和24年9月の定期券

提供 宇和島巖氏

路面電車の生き残り

都電荒川（あら）線

荒川線は東京都内でたった一本の路面電車の路線です。小型の車体がチヨクチヨク停車（ていし）しながら、急がず走っています。遊園地（うえんち）の乗り物のようですが、れっきとした現役（げんぎょ）の交通機関（こうつうきかん）です。

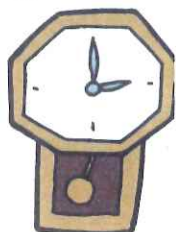
沿線（えんせん）には飛鳥山（あすのやま）公園、荒川（あら）自然公園、お婆（おば）ちゃん（おばちゃん）の原宿（はらじゅく）、栄（さか）公園、トゲ抜き地蔵（どげぬきじざう）さん、枯（か）れすきの木（き）で有名な鬼子母神（きこもがみ）さん、漱石（しゆくせき）・鏡花（きやうか）・荷風（かふう）などの文豪（ぶんこう）が眠る雑司が谷（ざしやがや）霊園（れいえん）もあります。それにJRの王子駅、大塚駅、京成の町屋駅と交叉（さかい）するのでとても便利。大勢（おほし）の人が停留所（ていりゅうじょ）に乗り降りして、大切な路線（るせん）であるのが分かります。そして、この電車のゆったりとした雰囲気（ふんいき）が乗り合わせの人達（ひと）を自然とやさしくしてくれるようです。

聞（き）けば、近頃（きんごろ）路面電車（路面電車）が見直（みなお）されてきているそうです。炭酸ガス（たんさんガス）排出量（はっしゅりょう）が少ない（すくない）の（が）いい。市街（しがい）地（ち）に活気（かき）を取り戻（もど）すのに有効（ゆうこう）では等々（とうとう）。チョコと立ち止（とど）まって考えてみる価値（かち）がありそうです。ついでに荒川線（あらせん）をゆくり体験（たいけん）してみませんか。

（武 恒雄 たけ つねお 70歳）



撮影：Shigeru Inoue

あの日
わたし

その1

有楽町で受けた

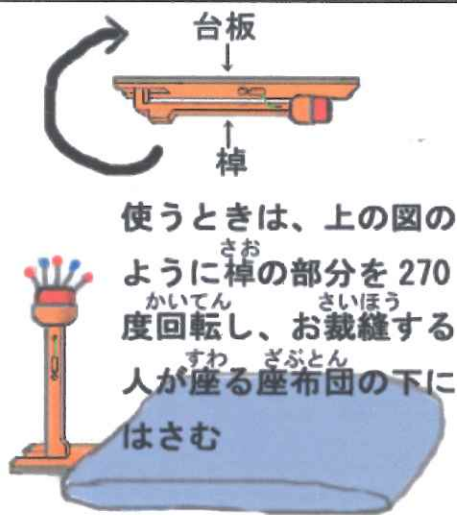
爆弾（ばく）

東京が未だ焼夷弾（しょうえいだん）攻撃（こうげき）を受ける前、当時中学三年生の私は神田（かんだ）へ本（ほん）を買いに省線（しょうせん）（JR山手線）に乗りました。有楽町駅（うたかちょうえき）まで来たとき、突如（とつじつ）空襲（くうくわい）警報（けいほう）が鳴（な）り、電車が止まり、乗客（じやく）はいっせいにガード下に避難（ひなん）しました。今（いま）考えれば、電車（でんしゃ）や線路（せんろ）は空爆（くはく）の絶好（かく）の目標（きくご）なのに、どうしてガード下に避難（ひなん）したのでしょうか？ しばらくして空気が割れる音がして、後（のち）は何（なん）もわからなくなりました。気が付くとあたり一面（いちめん）が（が）かかったように埃（ほこ）が立ちこめ、とてもキナ臭（きなくさ）い匂（にお）いがしていた記憶（きおく）があります。まわりに人が倒（たふ）れていて十円紙幣（じゅうえんしちへい）が数枚散らばっていたのをなぜか鮮明（せんめい）に覚えています。

当時、新橋（しんばし）に住（す）んでいました私は歩いて帰宅（きたく）、すぐ近所（きんじよ）の個人病院（こじんびょういん）に母（はは）が連れて行（い）ってくれました。爆弾（ばく）の破片（はくぺん）は身体（からだ）の中（なか）に入（い）ったまま、傷口（きずぐち）を消毒（しょうじく）、縫合（ぬいごう）して終（お）り。幸（さい）い心臓（しんざう）や肺（はい）には影響（えいさう）がなかったようで、七十五才（しちごすう）の現在（げんざい）まで元気（げんき）で過（すご）してありますが、左（ひだり）の腕（うで）の下（した）を手（て）でさわると、「コリコリ」とした感触（かんじく）があります。イラク戦争（いらくせんそう）で爆撃（ばくげき）シーン（しん）をテレビで見ると、当時の記憶（きおく）が甦（よみがえ）り、戦慄（せんりつ）が走（はし）ります。私の身体（からだ）の中ではまだ戦争（せんそう）は終（お）っていません。

（中嶋 弘 なかじま ひろし 73歳）

生活の道具



使うときは、上の図の
ように脚の部分を270
度回転し、お裁縫する
人が座る座布団の下に
はさむ

イラスト：Shigeru Inoue

紬(く)け台

おかあさん、コートの裾のほつれたのを縫
って、ズボンの裾もネー！よく息子(こ)達に頼
まれました。洋服の生活では、あまり使われなくな
りました。紬け台は、昔はとても便利(べん)な裁縫(さいほう)
用具の一つで、この家庭(か)でも、おかあさんや、
おばあさんがよく紬け台を使って裁縫をしていた
姿が見られました。今と違って、昔は着るものは
何でも自分で縫って作る時代でしたから！特に
和服などを縫う時、布がたるまないように端(は)を
糸でつって固定すると、とても縫いやすく便利なの
です。

紬けるというのは布を裏側に折ったり、二枚の布
を縫い合わせることで縫い目が表に見えないよう
に縫うのです。紬け台に、布がたるまないように、
布の端を紐(ひも)でつって置き、台板は座布団の下
に入れて、体の重みで押さえ、脚(あし)から出ている紐
の先に待ち針を付けて紬けます。布の端(は)を足で押
さえながら縫うことも出来ますが、胡坐(こ)も女性
には苦勞で出来ませんので紬け台は、昔はなくては
ならない用具のひとつでした。洋裁(ようざい)になり、机
に取り付ける小型の用具が出来、使いやすい紬け台
に変わってきたのです。

縁側(えんがわ)で縫い物をしていた母の姿が走馬灯
(まわらず)のように思い出されます。
(中嶋 房子 なかじま ふさこ) 69歳

あの日 わたし

その2

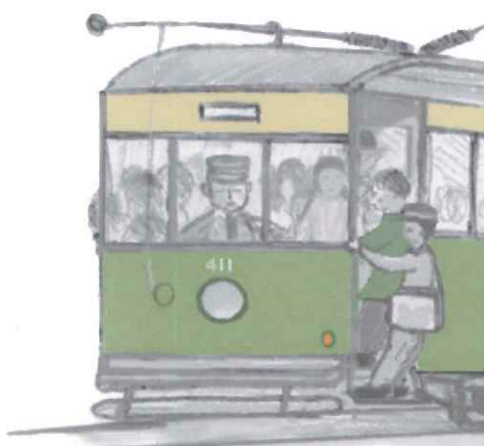
中学時代の数分間のスリルの思い出

私達の語り部の学習会で都電について話題が出た
時について話を聞かせて、満員の都電に友人何人か
と車体の外に身体を乗り出して手すりにつかまって
一停留所(いつていりゅうじょ)か二停留所(ふたていりゅうじょ)の距離(きょり)は平
均(へいき)約4〜500メートル位だったと思う(う)の間
をあわよくばタダで乗るというスリルを味わった事
を話してしまっただ。

その結果、体験記を簡単に書いて良いから書いてみ
ないかといわれて既に半世紀以上経過(けいこ)して
いるので、ただ漠然(ぼく)としていてどの路線(れんせん)でこ
からどこまでといわれても思い出すすべもない。

確か一般(いっぺん)の都電より小型でドアのない箱(はこ)型の
電車(でんしゃ)でその様な事をやった記憶(きおく)がある。当時は
現在(いま)のような車社会(くるしゃかい)ではなかったので私の知る限
りではぶらさがっている人が転落(てんらく)したとか怪我(けが)
したとかいつ話は聞いたことはなかった。他に移動
(いどう)手段(しゅん)がなかったから、路面電車(路面電車)があればど
混雑(こんさつ)したのだろう。車掌(しやうさう)さんも外にぶらさ
がっている悪力(あくりき)がタダ乗りを決め込んでいる事
を知っていたとしても厳(げん)しくとがめる事も無く、見
て見ぬふりをしていてくれた事を良いことにたま
には数分間のスリルを楽しんだ思い出がある。

(宮治 茂 みやぢ しげる) 72歳



イラスト：Shigeru Inoue

なつかしの歌

電車唱歌(うた)



みなさん「電車唱歌」をご存知(ごぞんじ)ですか。
「鉄道唱歌」なら知っているけど「電車唱歌」
なんて聞いたこともないという方がほとんど
だと思います。東京で路面電車が営業を開始
したのは明治36年8月、最初の路線は新
橋・品川八つ山間5キロ少々の区間でしたが、
その後市民の足としての便利さから急激(きゅうけき)
に伸び明治38年末には総延長(そうへんちやう)が63
キロにもなりました。「電車唱歌」はその頃
に作られた古いものです。田村虎三(たむらこさ)作詞、石原
和二郎(わじらう)作曲(ていしやく)のこの歌は52番まである長いも
のですが、港区の部分の歌詞(かし)をここに記し
ます。(今回は芝地区のみ)

新橋(しんばし)わたりて左(ひだり)には

同じ名(な)のあるステーション(※1)

線路(せんろ)はおなじ大通(とおう)

芝(しば)の町(まち)走り行(い)く

大門町(だいもんちやう)の左(ひだり)には

電車鉄道会社(でんしゃていどうがいしや)あり(※2)

ほどなく高輪(たかのり)泉(いずみ)寺(てら)まで(※3)

四十七士(よじゅうしちし)のあても訪(たず)ねへ

街鉄線(まちてつせん)は三田(みた)より

芝園橋(しばえんばし)をつちわたり

左(ひだり)に見(み)てゆく公園(こうえん)は

徳川氏(とくがわうぢ)の廟所(ぼうじょ)にて

松風(しょうふう)すずしく園(えん)をきく

東宮殿(とうきゅうでん)下(した)に御慶事(ごけいじ)の

記念燈(きねんとう)あり丸山(まるやま)に

伊能忠敬(いのうただたか)の碑(いし)も建(た)てり(※3)

愛宕(あいだか)の塔(たか)を見(み)あげつつ(※4)

幸橋(さいばし)をわたるまに

いつか日比谷(ひびや)につきにけり

いで公園(こうえん)を見てゆかん

生涯学習センターから

この新聞は月に2回開催している学習会で作成し
ました。港区の子どもたちにも地域の昔のこと、お
じいさん、おばあさんがどんな生活をしてきたのか
を知ってもらいたい、という気持ちから、この新聞
の文章は小学校の高学年でも読めるように気をつけ
て書いてもらっています。

学習会は、毎月第2・第4水曜日に開催していま
すので、「語り部」としての活動に関心のある方、ぜ
ひご参加ください。

学校の先生方へ！(地域の方へ)

生涯学習センターでは、学校の授業や地域イベント
へ語り部の派遣・調整をしています。授業・イベント
内容によって相談に乗りますのでご連絡ください！

問合せ 3431・1606

次号は来年3月に発行予定です。

発行 港区立生涯学習センター

平成17年9月1日